

## 注目のビワ新品種「BN21号」の本県における栽培特性

府中果樹研究所 高畑宏基

長崎県で生まれた早生のビワ新品種「BN21号」は、早生品種の「長崎早生」と比較して大果で良食味であり、収穫期が同時期から数日早い品種です。既存の品種と組み合わせて栽培を行うことで収穫時期の労力分散につながると考えられます。

### 1 はじめに

ビワの栽培では摘果や袋かけ、収穫・調製、出荷作業が労働時間の多くを占めます(図1)。また、ビワの収穫期は他品目と比較して短いことから、特に労力が集中します。この労力を分散するためには、収穫期の異なる品種を組み合わせる栽培することが有効です。しかし早生品種は寒害を受けやすいことから、耐寒性が強く、果実品質が優れる新品種の開発が望まれていました。こうした中、近年、露地栽培が可能な早生の新品種「BN21号」が育成されましたので、香川県での栽培特性を紹介します。



写真1 「BN21号」の果房

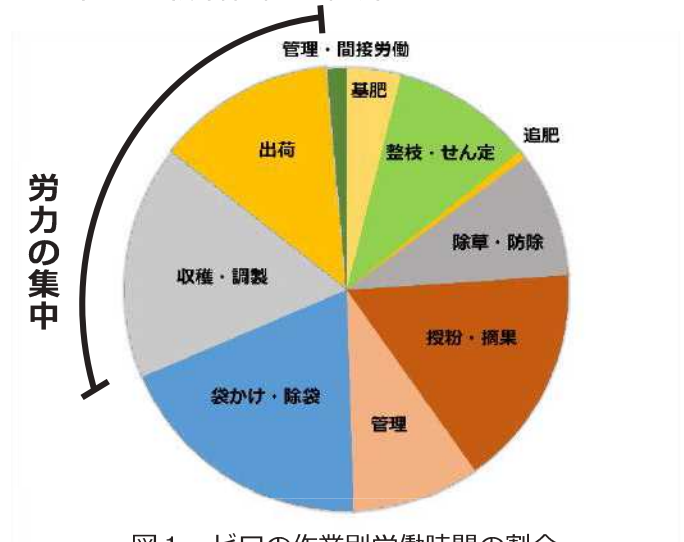


図1 ビワの作業別労働時間の割合

農林水産省 農業経営統計調査(平成19年)より

### 2 来歴

「BN21号」は、長崎県農林技術開発センターにおいて、平成9年に「長崎早生」に「涼峰」を交配して作出した実生から選抜され、平成29年に品種登録されました。

### 3 樹の特性

「BN21号」は「長崎早生」と比較して開花期は1週間程度遅く、収穫期は同日から数日早くなりました(表1、図2)。果実の耐寒性は「長崎早生」と比較して、開花期が遅いことから寒害に遭いにくいと考えられます。しかし、平成28年1月の寒波襲来の際には被害が大きかったことから、本県での栽培適地は冬季に低温<sup>\*1)</sup>になりにくい地域・圃場に限られると思われます。

\* 1) ※幼果が-3℃以下の気温に3時間以上さらされると寒害が発生しやすくなります。

病害の発生程度については、ビワがんしゅ病に抵抗性があり、府中果樹研究所では果実の小傷にわずかに発生する程度でした。

表1 「BN21号」の開花期と収穫期

品種名	年次	開花始期	開花盛期	開花終期	幼果の生存率(%)	収穫期
BN21号	令和2年	11月25日	12月18日	1月4日	90.0	5月21日
	平年	11月17日	12月1日	12月21日	74.7	5月22日
長崎早生	令和2年	11月7日	12月12日	12月28日	96.7	5月21日
	平年	11月10日	11月29日	12月18日	82.0	5月24日
茂木	令和2年	12月18日	1月4日	1月31日	100.0	6月1日
	平年	11月28日	12月17日	1月26日	83.3	6月5日

注1) 平年：平成28年～令和2年の平均値

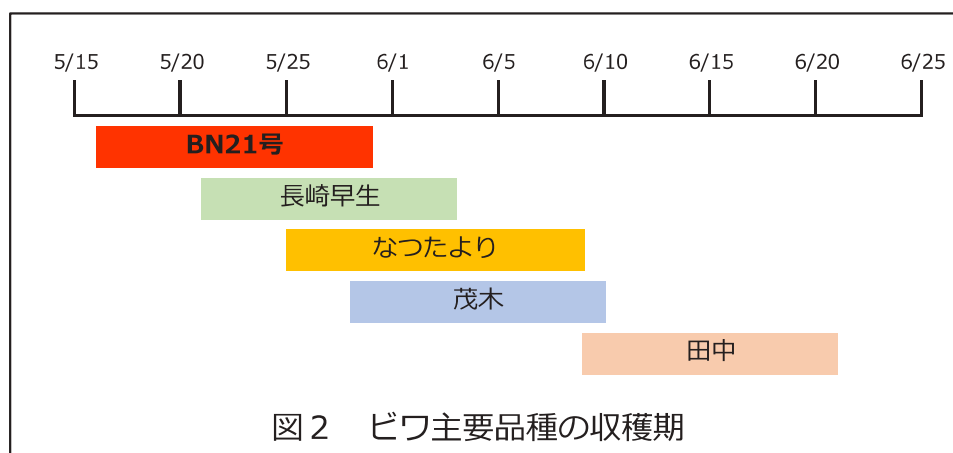


図2 ビワ主要品種の収穫期

#### 4 果実の特性 (表2)

果形は短卵形で、果皮色は橙黄です。果実重は52.7gと「長崎早生」や「茂木」と比較して大果です。糖度が16.1度と非常に高く、酸度も低いことから食味は良好です。果皮障害では、へそ青症とへそ黒症の発生は少なく、そばかす症や裂果、紫斑症の発生はやや多い傾向にあります。また日当たりの良好な園地では、皮が剥きにくくなる場合があります。

表2 「BN21号」の果実品質と果皮障害の発生程度

品種名	果形	果皮色	年次	果実品質			果皮障害の発生程度					
				果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100cc)	へそ青症	へそ黒症	そばかす症	裂果	紫斑症	緑斑症
BN21号	短卵	橙黄	令和2年	50.8	17.0	0.15	0.2	1.6	3.6	0.2	0.1	0.2
			平年	52.7	16.1	0.23	0.4	1.0	7.2	1.9	1.4	0.2
長崎早生	長卵	橙黄	令和2年	42.7	14.9	0.20	14.1	24.7	8.8	0.0	0.0	0.0
			平年	45.0	14.2	0.28	6.5	9.1	8.9	1.1	0.4	0.2
茂木	長卵	橙黄	令和2年	42.7	12.3	0.20	6.5	6.4	1.4	0.0	0.0	0.0
			平年	42.4	13.1	0.21	2.9	2.2	3.8	0.6	0.0	0.1

注1) 果皮障害の発生程度：(「甚」の果数×3+「軽」の果数×1)÷(果数×3)×100 で算出しました。

注2) 平年：平成28年～令和2年の平均値



写真2 「BN21号」の果実



写真3 「BN21号」の果形比較

## 5 おわりに

本県で栽培されている品種は、「茂木」や「田中」のほか、さぬき讚フルーツ推奨制度の対象品種である「なつたより」などです。今回育成された「BN21号」は、これらの品種と組み合わせて栽培することで、収穫時期の労力分散につながると考えられます。自園の経営規模や気象条件に合わせて適切な品種を選定することが重要です。

「BN21号」の苗木は令和3年度に本格的な流通が始まる見込みです。

なお、平成26年度～平成30年度は農水省の委託事業「イノベーション創出強化研究推進事業(ビワ供給拡大のための早生・耐病性ビワ新品種の開発および生育予測システムの構築(26100C))」として実施したものです。

### 生育ステージによる耐寒性の変化

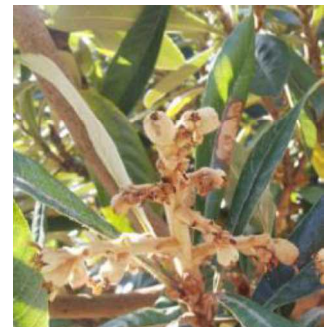
ビワは、蕾→花→幼果と生育ステージが進むにつれて、耐寒性が弱くなります。一般に開花が早い品種ほど厳寒期に幼果が低温にさらされることから寒害を受けやすくなります。



蕾



花



幼果

強



耐寒性



弱